

知ってなるほど! がん医療

Vol.1

第15弾

県立静岡がんセンター公開講座2018「知ってなるほど!がん医療」(静岡新聞社・静岡放送主催、県立静岡がんセンター、三島市、長泉町、裾野市、函南町、清水町、三島市民文化会館共催、スルガ銀行特別協賛)がこのほど、三島市民文化会館で始まりました。全7回シリーズ。開講式に続き、山口建総長、鶴田清子副院長兼患者家族支援センター長、秋山靖人研究所副所長兼免疫治療研究部長が講演しました。その概要を紹介します。

(企画・制作/静岡新聞社営業局)

主催/静岡新聞社・静岡放送 特別協賛/スルガ銀行 共催/県立静岡がんセンター、三島市、長泉町、裾野市、函南町、清水町、三島市民文化会館



県立静岡がんセンター 総長

やまぐち けん
山口 建氏

1974年慶応大医学部卒。99年国立がんセンター研究所副所長。同年宮内庁御用掛就任(併任)。2002年県立静岡がんセンター総長。00年高松宮妃癌(がん)研究基金学術賞受賞。14年アボット賞受賞。研究領域は乳がん治療、腫瘍マーカー、ゲノム医療、がんの社会学。

喪失の時代 どう過ごす

最近、「人生100年時代」という言葉を耳にします。長寿はめでたいことですが、社会保障分野の負担増などを理由に超高齢社会を否定的にとらえる風潮があります。超高齢化が進む日本では、国民一人一人が身体の手入れを怠らず、心を鍛えることが必要です。

人生100年時代の養生訓

50歳ぐらいまでの人生は家族や住宅車などを得る「獲得の時代」です。しかし、それを過ぎると老化現象が始まり、親を失い、職をなくすなど「喪失の時代」が訪れます。人生1000年時代では、この時代が数十年続き、どう元気に乗り切るかが課題です。

加えて、がん、心筋梗塞、肺炎、脳卒中といった日本人の死因の上位4位を占める病気の主な原因も、老化現象が根底にあります。特にがんについては、2人に1人が罹患(りかん)し、3人に1人が、がんで命を落としています。

命に関わる病気への対策として、まず、生活習慣の改善が有効です。禁煙、お酒と塩分、脂肪は控えめに。腹八分で肥満を防ぐ。野菜・果物は多く、軽い運動やウォーキングを1日約30分行う。体は清潔に、ストレッチは極力減らす。これらの実践でがん、心筋梗塞、脳卒中はある程度予防できます。また、感染症や高血圧、糖尿病・肥満・高脂血症の治療が、

身体の手入れを怠らず

人間である以上、老化現象は避けられません。例えば、老眼、白内障、糖

がんの予防や動脈硬化の悪化を防ぐのに役立ちます。予防の次が早期発見、早期治療です。がん検診や特定健診を積極的に受け、諸症状に気を付ければ、一人一人の努力だけでもある程度、死を免れることができま

心は決して老いない

人間の肉体の老化は避けられませんが、心は決して老いませぬ。豊かな心を鍛えれば、「喪失の時代」を乗り切れます。その心構えとして、私は生老病死、森羅万象、幸せの閻魔(いさ)ち、絆、そして生きがい。この5つのキーワードを重視しています。

限りある人生を豊かに

心には、時には栄養も必要です。私は「心の栄養七曜訓」を作り、実践しています。日光を浴び、心を明るくし、各月のような美しいものに感動する。ろうそくの火のもとで先祖と心の対話をする、良質な水を飲む、樹木などの自然環境で心を癒やす、お金を工夫する、大地をはだしで歩く。皆さんにもお勧めします。

最後に、韓国小説の一文、「あなたが亡くして過ぎてきた今日という日は、昨日死んでいった人が心から生きたいと願っていた明日だ」を紹介しましょう。過去を後悔しても始まりません。未来をあれこれ考えても思うようになりません。悔いがないように日々をいとおしく、前向きに過ごしていきましょう。

がんに向き合おう! あなたを支えます

がんと付き合うために

がんと診断されると、私たちの暮らしは大きく変わります。静岡がんセンターの調査によると、がん患者の悩みは、診療上の悩み、身体の苦痛、心の苦悩、暮らしの負担の四つに大別されます。

がんと付き合うために大切なことは、まず納得して治療を受ける情報を得ること。次に心と身体・暮らし・診療の悩みを相談できる支援者を持つこと。そして、自分の生き方に合う治療・療養場所・就労を選ぶことです。静岡がんセンターをはじめ、

県立静岡がんセンター 副院長兼患者家族支援センター長



つるた きよこ
鶴田 清子氏

1977年日本大医学部付属看護学院卒。同大付属板橋病院、浜松医科大学付属病院、県立こども病院勤務を経て、98年県立静岡がんセンター準備室。2002年同センター開設とともに勤務。医療安全管理監、副看護部長、看護部長、14年副院長兼患者家族支援センター長。

「お世話なれ上手」になる

そこで上手にがんを治し、患者と家族を支援するため、静岡がんセンターでは三つの仕組みに対応しています。

まずは多職種チーム医療です。がん治療と並行して副作用・合併症・後遺症の予防と治療・ケアを提供します。同時に、よろず相談、患者家族支援センターが心理面をサポートします。そして、がんと共生するための情報収集や他者とのつながるために、インターネットでの情報提供や患者図書館、患者サロン、交流会を実施しています。静岡がんセンターのよろず相談では、患者の経済・心理・社会的問題の解決と調整を援助し、社会復帰の促進を図るため、年間1万4000件の相談・支援を行っています。

今では多くの人が、がんと共に生きる時代です。患者さんやご家族は遠慮せずに、頼れる人に頼る「お世話なれ上手」になっていたとき、生活と仕事を守りながら自分らしく暮らしてほしいと願っています。

がん免疫療法の新時代

転移性がんにも有効

私たちの身体には、自身を病気から守る免疫の働きがあります。免疫の細胞にはB細胞とT細胞があります。B細胞は抗体を作り、T細胞はがん細胞を殺す働きがあります。

また、がんの新しい免疫細胞療法で注目されているのが、若年者の血液のがんに有効とされるCAR-T細胞療法です。すでに欧米では導入され、日本でも今後、承認される見通しです。また、免疫チェックポイント抗体を使って進行したがんを縮小させた後に手術をする、ネオアジュバント免疫療法もあります。

がんの特異的なペプチドにネオアンチゲンがあります。この異常なペプチドを多く持つがんには、悪性黒色腫、肺がん、胃がんが挙げられますが、これらにはオプジーボが効果的で、抗体治療の予後が良いことが分かりました。

県立静岡がんセンター 研究所副所長兼免疫治療研究部長



あきやま やすと
秋山 靖人氏

1984年徳島大医学部卒。同大第一内科入局。米国国立癌(がん)研究所への留学を経て、99年国立がんセンター研究所(東京都)で進行メラノーマ(ほくろのがん)に対する免疫療法の臨床試験施行。2002年静岡がんセンター免疫治療研究部長。17年研究所副所長。研究領域は免疫療法の橋渡し研究。

タワーンミーティング 質疑応答

会場では参加者と講師の間で質疑応答が行われました。その一部を紹介します。

Q 静岡がんセンターで胃がんの手術を受け、約5年間、通院していた時には調子は良かったのですが、それ以降、胃の調子が良くありません。年一度、内視鏡検査を受けていますが、胃が痛みます。再び、静岡がんセンターで診てもらうことはできますか。

山口 もちろん、受診できます。予約センターに連絡してください。自分では胃が痛いと思っても実際には胃ではない場合もあります。現在の医療機関の診療情報をお持ちいただければ、より良い治療を受けられます。

Q 前立腺がんで静岡がんセンターに通院していますが、主治医と会話がかみ合わないのが不安です。医師の交代は可能ですか。

鶴田 患者家族支援センターでは担当医の了解を得た上で、看護師が診察に同席し、患者さんと担当医との橋渡しをします。それでもうまくいかない場合は、診療科部長に伝え、話し合います。看護師に相談してみてください。

Q がんの免疫チェックポイント抗体による治療で、抗PD-1抗体(オプジーボ)の承認を受けた適応疾患の内、静岡がんセンターで行われている疾患名を教えてください。

秋山 免疫チェックポイント抗体の開発は臨床試験などを通じて進んでいます。現在抗PD-1抗体は、6種類のがんで承認されていますが、静岡がんセンターでは、悪性黒色腫と非小細胞肺がん、胃がんに対して治療が行われています。

進歩する免疫療法